

知っていますか？ 安心して出産できるよう 「妊婦検診」や「出産にかかる費用」が 少なくなっています

子どもは社会の宝です。出産に多額の費用を必要としますが、少しでもそれを軽くする制度ができています。

★★出産育児一時金の支給額と支払い方法が変わりました

皆さんは健康保険に加入していますか。病気の時、保険がないと高額な医療費を払わなければなりません。保険があると自費で払う分はごく一部になるので、とても助かりますね。日本では、すべての人がなんらかの形で保険に加入する義務があります。

会社に勤めているなら社会保険、自営業なら国民健康保険です。一家の稼ぎ手が加入している保険に家族もいっしょに入れます。

ところで、出産のときには保険が適用されません。出産は病気ではないから…ということです。でも、出産の時も医療機関のお世話にはなるわけで、お金もかかります。そこで、出産にかかった費用を後からもらえる「出産育児一時金」という制度があります。

これは、保険に加入している人は、出産時に医療機関に払った金額を、あとで保険機関からもらえるという仕組みです。しかし、これまでは最初に医療機関に払うお金はとりあえず自分で用意しなければなりません。利用者は、事前にまとめたお金を用意しておかなければならなかったのです。

昨年の秋から、この出産育児一時金は、病院と保険機関との間でやりとりするということになりました。

この方式だと、出産費用は保険機関から直接病院に支払われます。妊婦さんは大金を用意する必要はないということです。ただし、医療機関によってはこの制度にまだ対応していないところもあります（対応していない医療機関では、利用者に説明することになっています）。その場合は、以前と同じくとりあえず出産に必要な費用は自分で用意し、払った後で請求してお金をもらうことになります。あなたが利用している医療機関が新方式に対応しておらず、あなたがどうしても事前に出産費用が準備できない場合は、医療機関に相談してみましょう。あなたが出産育児一時金をもらえるまで支払いを待ってくれる場合もあります。あるいは、保険機関や社会福祉協議会などによる資金の貸し付けを利用できるかもしれません。

昨年 10 月から、出産に際して支払われる額の上限も、4 万円増えて 42 万円になりました。支払いが 42 万円以下なら、余った分のお金を後から請求して利用者がもらうこともできます（逆に、お産にかかった費用が 42 万円を超える場合には、利用者が差額を支払うことになります）。

また、妊婦さんの検診についても、出産までの 14 回の検診すべてを公費負担で行うことになりました。



www.ficcc.jp/foreign/

● 「インフォメーションふじみの」のバックナンバーを見ることができます

土曜日は国際子どもクラブへ来ませんか

毎週土曜日10時から12時は、子どもの開放日。日本語を母語としない児童・生徒の日本語指導や学習支援を行っています。中学生には定期試験の対策なども指導しています。土曜日は力をつける時です。時間のあるときはセンターに来て勉強してみてはいかがでしょうか？

5月6日、1日遅れの端午の節句でした

センターの日本語教室は、日本の伝統行事を通して日本文化に触れていただこうと、機会あるごとにイベントを催しています。5月には、昔から男の子の節句と言われている『端午の節句（現在は“子どもの日”）』を祝いました。まずお琴の演奏に始まり、新聞紙を折って兜を作ったり、柏餅に舌ずつみをうったり、あみだくじをやったりと短時間のイベントでしたが、充実した時間でした。7月にはこれも毎年行う「七夕祭り」を企画しています。どんな趣向で演出するかはお楽しみです。ひごろ日本語教室に足を運ばない方も遊び



においでください。日本語とごちそうが待っています。

子ども手当の申請手続きが始まっています。もうお済みですか？

先月号で紹介しましたが、「子ども手当」制度が新年度からはじまっています。時代を建設する子どもの健やかな成長を応援するための制度です。まだ手続きをしていない方、知らなかったという方は、ぜひ市や町の役所で手続きを行ってください。外国籍市民にも資格がありますし、子どもを母国で育てている人にも支払われます。



● 6カ国版の生活が「ト」を掲載しています

外国籍市民の目・不思議な日本人の風習

神田 歩

今回は、結婚式に参加する人のマナーである「祝儀」についてお話したいと思います。日本人にとって人生の節目である儀式などには欠かせない祝儀ですが、外国人には馴染みがなく理解できない人も多いようです。祝儀とは慶事（喜ばしい時）の喜びの気持ちを表し、その儀式を開催する人の手間に対する謝意を表すために贈る金品のことです。一般的に日本の場合、結婚式を開くためにはたくさんのお金がかかります。そこで祝儀という形で、招待された出席者が少しずつお金を出し合うのです。祝儀としては、お金ではなく品物を贈ったり、お金と品物の両方を贈ったりしてもいいのですが、品物を贈ると結婚する人が似た物を幾つもらったり、あまり欲しくない物もらったりすることもあります。しかし、お金なら自由に使えるので都合がいいと「祝儀袋」といって華やかなデザインが施された袋に入れたお金が贈られます。日本では結婚式や成人式、また不祝儀といって葬式や病気見舞いなど勇気付けをするためにお金を贈ります。

江戸時代からあったとされる祝儀の文化、相手を思いやり互いに支え合う気持ちがこれからも続いて欲しいと思います。

大好評 梶先生のパソコン教室

ふじみの国際交流センターでは、パソコン初心者の方の外国籍市民のために、毎月2回第2、第4木曜日1時から2時30分までパソコン教室を開いています。パソコン指導のプロ、梶先生の指導が分かり易いと大好評で、疑問解決に本当に助かっていますと喜びの声がいっぱいです。このパソコン教室は無料ですので、勉強したいと思っている方は、日本語教室の後、一緒に勉強してみてもいいでしょうか。

www.ficec.jp/living/